

【活動テーマ】「みんなで育てる理想の大学」 ～CS研大学～

➤ 活動方針

事務システム分科会の特徴は、活発な情報交換により他大学の業務内容やシステム運用などに触れ、自大学と比較し、自大学の強みと弱点を把握できる点です。その活動を通じて、会員各位が所属大学や部署において、ステークホルダー（社会、学生、保護者など）に対するより良いサービスの提供を提案できる人材になることを目指したいと考えております。

➤ 活動概要

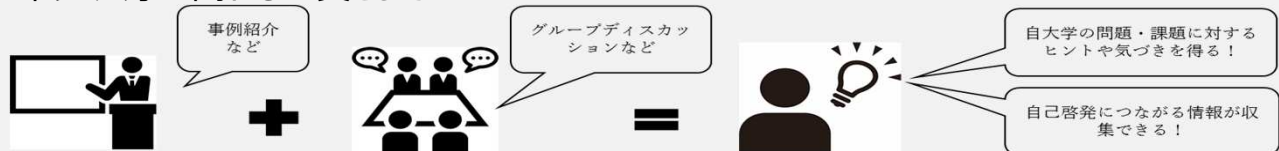
会員各位の大学間で「共通する業務」を分科会各回の活動テーマとし、事例紹介やグループディスカッションを通じ、以下を推進します。

- ・自大学が抱えている問題や課題を共有
- ・他大学の事例を伺い、自大学の問題点などの解消、改善の参考にしていただける取り組み
- ・ヒューマンネットワークの構築

また、2020年度より、事務システム分科会の中に「CS研大学」をバーチャルで設立し、会員各位がCS研大学に所属する教職員になりきり、分科会各回で取り上げるテーマに対して、理想的な方針、運用方法ならびに業務フローなどを策定していただきます。ぜひグループディスカッションなどを通じて得た情報を基に、CS研大学の健全な運営に寄与することを目標にしたいと考えています。

さらに、前年度までの参加者アンケートで特にご要望が多かった「働き方改革」についても取り上げていきます。法令上ならびに社会的にも加速度を増して対応が求められている働き方改革ですが、会員各位が、以下を含む様々な視点で「働き方改革」について議論をしたいと考えております。

- ・一人の社会人として
- ・所属する部署・大学の一員として
- ・私立大学に関わる一員として



* 「CS研大学」について

～CS研大学（仮想）の現況～

202X年、文部科学省へ設置認可申請を行っていた「CS研大学（仮想）」の認可があり、いよいよ学生募集がスタートした。学生募集は手応えを感じており、これまで設置認可申請に向けて多くの業務を担ってきたCS研大学の各部署の職員達は、少し安堵するとともに、新入生の受け入れに向けて決意新たに気を引き締めていた。

翌年度4月に実施する「学生証交付」や「新入生ガイダンス」に向けて準備を進めるべく、部署の垣根を超えた「新入生受け入れ準備プロジェクト」が組織された。学生証については仕様検討中であり、運用方法も含め、早期に議論を進める必要があった。また、各部署から「新入生に提供したい情報」を収集したところ、開講期の限られた期間で多くの情報を新入生にインストールする必要があることが浮き彫りになった。さらに、学生ポータルや各種サービスを学生が利用する際のIDやパスワードの運用についても未だ準備段階であり、プロジェクトのタスクは山積み、プロジェクトメンバーは頭を抱えていた。

➤ 活動スケジュール

回	開催日	開催場所・開催内容等
1	6月頃	<p>【開催場所】：調整中</p> <p>【開催テーマ】：「新入生ガイダンス」</p> <p>【開催概要】：想定されるキーワードは、情報伝達、BYOD、無線LAN、ペーパーレス、電子化、Web化などです。各会員校では、新入生向けの各種ガイダンスのスケジュール策定、情報伝達方法やツールなどに苦慮されていませんか？</p> <p>【参加してほしい方】：管理職からメンバー層まで、業務・経験不問です。</p> <p>【参加により得られる価値】：新入生ガイダンスの課題解決に向けてヒントを得ていただけます。</p>
2	10月から11月頃	<p>【開催場所】：調整中</p> <p>【開催テーマ】：「学生証、学生へのID・パスワード発行」 (事務システム分科会・システム運用管理分科会コラボ企画)</p> <p>【開催概要】：想定されるキーワードは、データ連携、セキュリティ、学生証アプリ、学籍番号などです。紙、磁気、ICと発展してきた学生証ですが、スマホを利用した学生証の導入はあまり進んでいないようです。また、ID・パスワード発行業務は、新入生がスムーズに学生生活をスタートするためには、とても重要な業務です。しかし、入学生データ確定から発行までの業務フローは短期間かつ膨大な作業量であると推測しております、いかがでしょうか？</p> <p>【参加してほしい方】：管理職からメンバー層まで、業務・経験不問です。</p> <p>【参加により得られる価値】：学生証の運用やセキュリティ対策などについて、多彩な情報を得られます。</p>
3	12月頃	<p>【開催場所】：調整中</p> <p>【開催テーマ】：「働き方改革」</p> <p>【開催概要】：想定されるキーワードは、時短、効率化、AI、RPA、フリーオフィス・アドレス、テレワークなどです。働き方改革が促進され、我々教職員の労働環境が改善され、WLB (Work Life Balance) がとれ、QOL (Quality of Life) 向上が実現したとしても、ステークホルダー (社会、学生、保護者など) へのサービスが低下してはいけません。会員各位が、①一人の社会人として、②所属する部署・大学の一員として、③私立大学に関わる一員としてなど、様々な視点で「働き方改革」について議論してみませんか？</p> <p>【参加してほしい方】：管理職からメンバー層まで、業務・経験不問です。</p> <p>【参加により得られる価値】：働き方改革について、会員相互で多面的な意見交換ができます。</p>

上記の記載内容は変更となる場合がございます。